

地球市民学研究法Ⅰ、Ⅱ

1. テーマ

地球市民としての私の主張

2. 授業内容

4年生はこれまでの勉強と研究を集約し、テーマを絞り込んで、地球市民として何を主張したいかを、主張の仕方まで含めて考える。3年生は4年生に学びながら、自分なりのテーマを見つけ、それについて勉強と研究を進めて、卒業プレゼンテーションへの道を拓いていく。

テーマはそれぞれ独自のものでよいが、なんらかの形で、基礎演習Ⅱ「グローカリズムの諸問題」に挙げたものにつながるよう努力する。

3. 授業予定

参加者の研究発表をめぐる討論が主体の授業であるが、議論のレベルを高めるため、適宜テキストをめぐる発表と討論も行う。自分のテーマにのめり込み、視野が狭くならないよう、また、これまでの勉強と研究の成果を生かして、できるだけレベルの高い研究発表ができるよう、討論をつうじてお互いに高め合うよう努める。

4. 授業方法

4年生から順番に自分の研究について発表していく。3年生はそれに続く。自分の発表でないときにも必ず出席し、討論に加わる。それをもとに研究を進め、夏休み明けまでに4年生は最低10000字のレポート、3年生は最低6000字のレポートを提出する。さらに12月の最後の授業までには、4年生は最低12000字のレポート、3年生は最低8000字のレポートを提出する。年明けの最後の授業は4年生の卒業プレゼンテーションの予行演習。3年生も必ず出席する。

5. 評価方法

出席および研究発表と討論参加が60%、2回のレポートが40%、で評価する。

6. 教科書・参考書

教科書：庄司興吉編著『地球市民学を創る』（東信堂, 2009, ISBN978-4-88713-896-4）。庄司興吉『市民学入門』（2010年9月出版予定）。

参考書：『社会学の射程：ポストコロニアルな地球市民の社会学へ』（庄司興吉著、東信堂、ISBN978-4-88713-874-2）

この授業については、庄司のホームページを毎週見て、必要な資料等をダウンロードすること。該当ページは、「市民の社会学をめざして <http://www.kokshoji-globalcitizen.com/>」の「市民のための社会学」のなかから探す。

1 0 0 4 1 6

全員の自己紹介。

授業方針の説明。

来週までに全員が、前学年にまとめた研究調査レポートを見直して必要な手を加え、もってくる。1部を教員に提出。

そのうえで全員が、今年度の研究調査計画を「要領」にもとづいて作り、全員分をコピーしてくる。

1 0 0 4 2 3

研究調査レポートを提出。

研究調査計画を全員に配り、それぞれ簡単に説明して意見を出し合う。

全員が研究調査の態勢にはいる。

1 0 0 5 0 7

研究調査計画のチェック、3年生の2人。

研究調査の発表。4年生の3人。

他のメンバーは進展報告を提出。

発表について、全員が次回までに反射光線でコメントする。

1 0 0 5 1 4

研究調査の発表。4年生の残りの7人。

他のメンバーは進展報告を提出。

発表について、全員が次回までに反射光線でコメントする。

1 0 0 5 2 1

研究調査の発表。4年生の残りの3人と3年生の5人。

他のメンバーは進展報告を提出。

発表について、全員が次回までに反射光線でコメントする。

1 0 0 5 2 8

自らの研究調査について、1回目の発表が終わった人は、もう一度振り返って進展状況を確認してみる。まだの人は計画を確認して、研究調査を進める。

次回発表予定の人は報告の準備をし、その他の人は進展状況報告を準備する。

1 0 0 6 0 4

研究調査の発表。4年生の残り3人と3年生の残り、全員終わらせる。

報告者以外は進展報告を提出。

発表について、全員が次回までに反射光線でコメントする。

1 0 0 6 1 1

研究調査の発表。前回までに終わらなかったもので、4年生の残り3人と3年生の残りを全員終わらせる。

報告者以外は進展報告を提出。

発表について、全員が次回までに反射光線でコメントする。

100618

全員の研究調査発表についての総括討論。

全員が進展報告を提出。

総括討論について、全員が研究調査発表の論理性について考えてみる。テーマ、問題意識、仮説、文献資料サーベイ、フィールドサーベイ、分析、発見、結論、残された課題、に流れがあるか？

100625

全員が研究調査を続行。深める。

100702

全員が進展報告を提出。

『社会学の射程』第Ⅲ章をテキストに、「立論する」ということの意味について議論する。

100709

4年生でまだ中間報告をしていない者の報告。

前回の議論の継続。

進展報告は全員提出。

夏休み中の研究調査計画づくりを始める。

100716

4年生の2人の報告者についての反射光線を庄司研井上さんに提出。

研究調査を進展させ、夏休み中の研究調査計画づくりを進める。

100723

夏休み中の研究調査計画の発表と討論。レジュメを全員分つくってくる。

それ以外に、全員、これまでの研究調査の成果をすべて盛り込んだ報告を庄司に提出（進展報告の代わり）。

4年生の二人に反射光線のフィードバック。

101008

学生主体のゼミ運営、第1回。各報告者のレジュメおよび「報告と討論の記録」を報告者ごとにまとめ、次回までに提出。

101015

学生主体のゼミ運営、第2回。各報告者のレジュメおよび「報告と討論の記録」を報告者ごとにまとめ、次回までに提出。

101022

学生主体のゼミ運営、第3回。各報告者のレジュメおよび「報告と討論の記録」を報告者ごとにまとめ、次回までに提出。

101029

学生主体のゼミ運営、第4回。各報告者のレジュメおよび「報告と討論の記録」を報告者ごとにまとめ、次回までに提出。

101112

『社会学の射程』第IV章についての報告と討論。決められた分担にしたがって報告を用意してくる。論文とは何か、論文の書き方について討論。四年生は卒プレレポート、三年生は学年末レポートのために。

次回からはレポートをめぐる発表になるので準備を怠らない。

101119

『社会学の射程』第IV章についての報告と討論、残りの部分。

四年生の卒プレレポートの報告と討論、最初の5人。

5人の報告について全員が反射光線でコメントする。

101126

四年生の卒プレレポートの報告と討論、残りの7人。

7人の報告について全員が反射光線でコメントする。

101203

四年生の卒プレレポートの報告と討論、残りの2人。

三年生の卒プレレポートの報告と討論、最初の5人。

7人の報告について全員が反射光線でコメントする。

101210

四年生の卒プレレポートの報告と討論、残りの1人。

三年生の卒プレレポートの報告と討論、残りの7人。

8人の報告について全員が反射光線でコメントする。

101217

全員が反射光線とならんで卒プレレポート、学年末レポートの目次と骨子を提出。

三年生の卒プレレポートの報告と討論、残りの3人。

3人の報告について全員が反射光線でコメントする。

反射光線は12月22日17時までに地民研助手さんに提出。

該当者は 12 月 24 日 14 時～17 に庄司研井上さんから自分の報告にたいする皆のコメントを受け取ること。自分の報告にたいする皆のコメント受け取りにこず、レポートに反映させないものは評価が低くなる。

年明けのゼミについて。

1 1 0 1 0 7

四年生は卒プレレポートの作成に集中。

三年生は学年末レポートの作成に集中。

1 1 0 1 1 4

四年生は全員、卒プレ・パワポの原案をつくってくる。1 ページ 2 コマでプリントアウトしたものと、もとのファイルを USB メモリーに保存したものとを必ずもってくること。情環に頼んで、スクリーンに映写できるようにしておくので、そこで実演してみる。

三年生も授業なので全員参加。学年末レポートを持参する。四年生の卒プレ練習を応援する。

1 1 0 1 2 1

パワポ実演練習の継続。

四年生も三年生も全員参加。